倭讀一蒙集

利
1258
9

俳諧一葉集遺語之部

古夢庵佛子 編
幻窓湖中 校
坎窩久臧 校

一翁曰茅代不易ハ一時の変化ハ二ヶ竟る共本一し任て
其八風体の誠し不易をしるされハ家を初て不見
云八新古よりよりて変化ハ有りてかくしてよくを
よる浮し代々の古人の奇を尽くし代々を変化ハ又新古
まてをくしてをくを不者をくしかくしてハかくれる奇多
見元を易とハ一又ハ変万化するの八自然の理し変化
をくつふれ八風ハかくをくしてハ是を押つつふれと云八一湯

体行ハ口質ハ誠を主とし其誠を主とする所ハ
きめいなをとうさうなるもの諸の変化を知と外ハ只人ハ
ばかりを行のみしさもつるものハ其誠を居るとく一お
自然とすむ理ハ行未いくお変万化すること俗と古人の
俗をもつてよりハ四時の押しつることく物ハ一ちる
うれ行のことく寒

一古学を学ぶ風雅を入るものハ思ふ心の色物と外ハ自姿定
まるかなれハ其物自然と一心のをうつけ一つの
されハおの物自をユむ是分学と誠を勉さるの俗し諸を勉
ること其風格を古人の学を拾ふ近く八汝の学を勉ふ一其
心を知されハ学ふ所に諸の学問を主とする汝の学問の
俗をはひとく其学を行ふ所を押直しをを拾ふ

自分ハ学ふ主とする誠を勉ふと八ふ人しハ汝の学ふ所
系学を一ちなるとく私を学ふ汝の学を拾ふ者門をも
とを学ふ其主ハ一て私の学を学ふことハ門人ふ学ふと押
其主ハ学ふ私の学ハ行の学ハ学ふ学ふと汝ハ
問の拾ふ私を学ふ学ふるとハ学ふ学ふと学ふ
のうちにとくて学ふ学ハさるを学ふを学ふ物を入て其誠の
学ふれを情其学ふ学ふ学ふ学ふ学ふ学ふ
し其物を自然ふ物を情を学ふ学ふ学ふ学ふ
情誠を学ふ私を学ふ学ふ学ふ二を学ふ其
はを学ふ其学ふ学ふ汝の学ふ学ふ学ふ学ふ
又私を学ふ学ふ誠学ふ学ふ学ふ学ふ学ふ
外ハ情ふを学ふ誠学ふ学ふ学ふ学ふ学ふ

[illegible]友の中に[illegible]功者[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]功者の[illegible]
[illegible]
[illegible]

一去年ちる梅ハ俤ハ[illegible]の花と古さハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]心地とふる雨雪ハ新[illegible]
涙と[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一百日乾坤の変ハ風物のいとなむ所なるもの不変の姿し新
[illegible]
[illegible]
[illegible]
又白[illegible]

又[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ちるとてちりかの有とゆるを音を俗語にいの俗ふくし

言 水に浮しや旅ねや岩の上

此句ハ小さちの石のくを手たりひわとをすれハいと高く岩の

高くとをれくかさをんとをくをくをく

[illegible]

一 [illegible]

一長根はさくらの事の不二

此句菊田氏大雪子入て句を二時共心はゆく句方名
所人が賀茂子けてくんを川といふ川こゝ　ゆみと
云句なるもと住句とてくを住をきれはしろ紙を共
やつうひをそこ又不二の句を山の海のこれほとの事をと
かくてを貴ふと言なる下と言

一 梅は蕾ゆうこれ梅のとろけ

此句菊田たくみをいふるゆるをいとろをを
て初る句しれのてくの句は又をんをいひくをとと義
をおもむく人を射ての此しを梅ををれと異をさとを

はゆをとををれて書をる一結し

一 二りををめをうをを　紀花の事

此句は元の屋中をいはをく俳をひををををををを句
の射菊田る紙屋つひをを越向をををる此ををは二をを
とをををををはをををををををいひをはををを月をはを
をををををいやをとを古芳を共句をををを芳の
ををををををををををををををををををををを
の新ををを

一 芳蛟や衣梅の田舟のをを　水

支考を此句は芳蛟ををををををををををををを
けを句は且をひをををる義句をををををををを
俳ををををををを

一　ゆるしてくめの花

去芳氏曰八一とせ行脚のひて翁梅のてくさのもとにるる氏曰鉢のゆるに淋一本古木梅ゆるを分て名てゆるしと社人の先てを分曰とゆるしと翁曰むしろ氏曰行脚の達人おくり句ととゆるむる孫子は梅のるをしらしに悦しくやかてとし風雅の心うけうは生るをとを思ひたれハやすらふ公をし

一　いれつきてをとるやみの秋帽子

此句翁曰門人此句をゆるしてつくるなり句なりとも去芳氏曰やはりとをとる目のをいひてつけとをとるなるの形

一　みてをしよるはゆつのひ一さてををゆるしてを

旅人とをうを名をとをれんをるみる

去芳氏曰八翁武江をを旅ゆのうをしををを

一　表之や新年ふるく朱王　外

此句菊四郎今しやとうめを文字にかいてきすゆかしとかきたる

風をやいとゝ石千載一遇の山茶

此句は此句の方此意を人しの白し風吹とゝ一ひら風を

やとゝ云て居こゝ作て四季とゝ言ふ事かれてさるとゝ

ゝ方ゝ文字ゝしゝ

一　六月や峰に吹こしてゆく山

此句蕉林堂の句也至最上と云句是はゝ雲やと

川風やうす物えらみすみ

此句雪の三十四句中の句

一　雪在峰一本抱やきしの松

菊四郎の第一句中きはゝ入る雪とゝ

いひくもる雪の味をとゝふとゝ云ふ雪とゝ

一　かゝ鮭や出やの夜と雪の中

此句菊四郎の味をゝふとゝ雪を志ゝとし骨折ゝ

ゝ句とゝ云ふ

一　地ゝゝきけ八ゝをゝしきの郭

此句菊四郎ゝつくゝ感ゝ雪ゝ絵ゝの鶴ゝ作ゝゝ八ゝ角ゝ地

ゝとゝゝ云ゝゝゝとゝ

一　本の雪ゝ八ゝ餅ゝ作ゝ乳

此句の附菊四郎ゝ句ゝかゝりゝゝ作ゝゝ

一　後堀の下ゝ当年ゝ深ゝ雪ゝ

此句八丑の年此年本丑ゝ此古歌ゝ人のゝゝゝ悔ゝ

ゝれゝ

一　七夕や秋をさそふはつめかぜ

去芳を氏白芳のくしあけ矣の夜に二子ゆきとゝめてあし
ひとしきりへて氏白の俳諧はものの枝と云ものひしとも

一　丈六千駄芳言しかれ共
駄芳くゝ俳　て　枝　石の上

去芳を氏白俳賀の大佛の白し人をとゝ俳　ゆきてとゝ俳
再俳をて丈六の方をさゝるしかれ

一　はけ俳はや白魚をとるよ一寸

此白をとゝ先をとゝ千をとゝ五文をはゝ芳のるし芳のるし言
手しや　枝千きをとゝ枝の　白

氏芳且芳曰人同ゆをとゝ止をあれしあり手しゆ芳入をとゝ
恢をとゝ枝をとゝ

一　支考を元祝七の支芳枝義枝ゆをとゝ社人をとゝ芳をあて俳
俳をとゝ支考の集俳をハ手をとゝ桐丈桶を俳をとゝ俳をとゝ
しをとゝ

梅をしにはつゝ白のむを広俳をの白

なをくをしを芳をとゝの艇の俳

支考を枝をとゝ芳ハ俳を手をとゝ枝芳をとゝの艇の俳を俳
芳をとゝ芳をとゝ一鉢の四をとゝ俳一俳をとゝ千をとゝ白をと
をとゝ芳をとゝ千俳大俳の本節をとゝ芳をとゝ

ひゆしをとゝ聖をとゝ俳をとゝ昼白

芳氏白ハ俳をとゝ芳の俳をとゝ芳をとゝ支考をとゝ芳をとゝ且俳芳を
をとゝ芳をとゝ芳枝の枝をとゝ芳をとゝ芳をとゝ芳をとゝ芳をとゝ芳
をとゝ芳をとゝ芳をとゝ人をとゝ俳をとゝ俳ハ俳謎ハ支考をとゝ芳枝俳

[illegible]

秋風ハ吹ども未青し栗の毬

此句いろの高きをおもうしろ吹ども青しと
云句こゝろ[illegible]

一　[illegible]一歩つゝ芒の白

古芒ゝ此句千歳の人通ひ[illegible]
此句千代ハ[illegible]

如儀

此秋ハ[illegible]

此句新涼ゝ句ゝ此句新[illegible]
此句[illegible]

[illegible]

菊白此句泉水の名有ゝ名月や此句[illegible]
[illegible]

一　[illegible]の[illegible]

古芒ゝ此句ハ[illegible]
菊ゝ尺[illegible]
女の[illegible]
[illegible]
因此句[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

なつ[illegible]ひ[illegible]ひ[illegible]ひ

一門人の白とえるや茶中の乳ハ星有歌と云ふ以門和尚星月和とえうする白しまつ之〳〵と言ふ

一去芳之門人の白と松風子新酒を煙ます山後ゆと云ふ弱曰山後を和尚子すへてとやれら其歌ものの為ふ

葉ゆとにもすゆハそしめた山後をうへ〳〵とし

一去芳之同花をのやそ〳〵いそくやうみとうとら白ふう人の云旨

ゆそ〳〵とくゆゆ白子なすゆ付れハ白おう〳〵ゆいうとやけ色ハ世曰いの世ゆの白うて無〳〵とし学のてハ後と知く

おう〳〵ゆ学そとをよゆ〳〵ゆ世新のてハ有てし言の旨

子をゆ男為のいるのすゆ和尚志いつ〳〵果をもゆ子に

をんといそそ孰しゆそとけされをゆれる孰なるといい

なゆ〳〵ゆうと言ひう

一去芳之同めゆ〳〵や後ふう附白之傘さゆてゆとを白ふう世曰

こゆハ初之和尚こなゆ〳〵ゆ後ゆ白ゆ後子白ゆとゆう

ゆやハゆう〳〵とゆされゆう

一同く世ゆ〳〵ゆ松加言ハ空の得之さんとを白ふう世曰和の

世ゆそゆ松をそゆうまゆ〳〵とゆされゆう

一同言ゆゆ構ん之る雨之和ゆ子白ふう世曰らの之人言ゆら

ゆるゆうゆとゆい和ゆ白ハとゆ世曰之人言ゆ四五意の松ハ和志ゆうゆれ

ゆゆゆ為ゆ〳〵ゆし

一去芳之言風や麦の中ゆくゆの言ゆを白ふう翁曰京言の

白し京を八大事のるのし世弱之京あゆとゆい古の家近浦く

結ゆ一代一白白ゆを白ゆ初心吉仏ゆ和ゆ子ゆ〳〵ゆう俳

世ゆ〳〵世弱作ゆゆ居ゆ地白京言の白ハ古ゆゆ〳〵ゆ

作ることいとあるべし此書風京西平一の白し俗代を知らく
しらべ物語いとも拙のの京にしとも拙くしておとられ侍る物
語あるべし京西八尺紙仕り廣さと定家卿と宮ふとし舞台
此物語の定数の字数の内石本見尺紙仕の形と成
業なり侍る

一 翁曰俳諧の書物とは八くしく仕しいふ字言し心敬僧都の私
評なるべし句のかるかるしく八品むかしの人のうつくしく
さしそなへて並び居るなり又仕の方八
多変方化すといへども本人する変品俳と思ひ外家家
此三ヶ物なり侍る

一 或問翁の句を解八さまざまし有といへども安上三之解する所今
とふ世十二解ニ八尺し作ることも物まさるべんやはなるべ

作ることに人ことに自ら心をもとめられこれ
やみ侍るし

一 翁曰俳諧いと筋八聲響俳稽物格量外ニ形なきさま起
ることし心通ることれ八及ひがたしさ

一 相の木にくく有ることなり
門さめさるものて梅さるおすしさ

一 翁曰蕉信八門さんて此一句を後を寸ニ紙ニ方門今
つ八ニ紙注ることれ此ニ句ニ紙ニ方門今
おもふ事ヶ物なり

一 市人ていてこれうん変れ 宝
酒の戸にくく敷のかれ 梅
物うるなるそうつ毎ニ引くうて

此芳三八門人杜子美白し此芳三をんと人さきにしいひ伝へ
侍日此芳三の仕方はさきにうつくしく艶にして風雅なる
ものハ風狂の詩人なるべしさきにうつくしく
入て武者の物ゝ此芳三ゝ
おしなべてハ扶つゝ故ゝ武者ゝ
角のとうゝ物ゝ
此絵ハ門人去芳白し此日此黄白とかきて此芳三の絵白
しかれ服して大くしとゆうおのしきしに仕て尺伝れも
四年のふしてゝ去芳と此白と尺伝れハよんゝとて世
まこれて伝れ伝ゝ此の心味ふへし
一去芳三黄白のてハけて物ゝ此の味こるゝ六里八万米おてし
梅花とゝ新し山里八万米白ゝとゝ梅ハ咲ゝ

此のてくにけて物ゝ心黄白し六里八万米白ゝとゝ
去白の伝し菊ゝ黄白ハゝ合てまのと色ゝとゝ
ゝ伝し色の中ゝ物ゝ去新ゝ
一去芳三菊日黄白の絵の絵本三の絵ゝ白の絵ゝ
ゝ物ゝとゝ
ゝ合ゝ白の古ひ白ゝ
ゝ物ゝ
一菊日人の方ゝ黄白ゝ
侍ゝ
ゝ
一去芳三手の絵手の物ゝ
ゝ此芳三手米豆ゝ用ゝ
ゝ此芳三ハ菊日ゝ人の業ゝ

[illegible]

一去年之菊日本の中と称せし松さ[illegible]すてと成よりつきすの
と白牛走けるこ八元こもやらしきみそくんときまれ
そこ[illegible]ふ物とゆひさるやくを詩り所れしし

一菊日本は菊の花白のそすうるやかのつい洗そこ八考そとすくし
変て仁牛分之時ひそる白ハ二代三三と白八ふこ[illegible]の[illegible]
ふ菊八五て白仁ふ[illegible]仁分和とこれとゆ仁[illegible]ふ[illegible]

みを菊そ[illegible]ふて[illegible]そこ[illegible]し[illegible]
無て清流川の[illegible]の[illegible]みと[illegible]て[illegible]
[illegible]

[illegible]

一菊日本の白上の白とそ仁二中三字の[illegible]
ぬふ[illegible]白ふ[illegible]
一菊日本て[illegible]
一菊日素秋の[illegible]
一菊日菊千芳叶せぬの八[illegible]
一菊日仙仙八成てなふさる[illegible]成人の仙仙八
[illegible]
[illegible]

一菊日成人の白八[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一菊白ゑうさふてしこれてしよ芳ひ寄し高さきと付望
の方ゑ望ともまちかくひ交ゑて位位なりしひ若し
ふ位なの位ハとてややちしゑしやむ不ゑひしし
一去芳ゑ菊白花白ハ門人ゑ此花ハ分会ハ老ての曙ゑのひ
ゑし成俳書ゑ行く
一菊白白の姿さのみかくゑ此ゑ人ゑの猶ゑ高ゑ安さく
ものくすくすくさくゑ高ゑ安さくものしくやの別ゑ付べ
却ゑなゑと言ゑ
一菊白香白しゑ高ゑの葉ゑ上ハやゑ方ゑ行ゑ葉ゑ上ハうゑ上
却ゑ門人の却ゑ以二三白ほゑて上ゑくゑ安ゑの方他一
折ゑ見ゑ伊賀の門人ゑ俳ゑ書ゑ以上白ゑ号ゑ及
ハかゑくゑん又ハゑくゑ此号ハ成方ゑ俳ゑ付ゑ

右カゑ方ゑ縦ゑ付ゑ方ゑ方ゑ葉ゑ方ゑ葉ゑ方ゑ
書ゑ方ゑ方ゑ書ゑ物ゑ方ゑ葉ゑ方ゑ葉ゑ方ゑ
ものゑ書ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ
一菊白牡丹ゑ芍薬ゑ付ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ
合ゑ方ゑ方ゑ付ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ
葉ゑ門歌ゑ門人ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ
一菊白赤ゑ白ハ葉ゑ出ゑ時ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ
ゑ俳ゑ書ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ
一去芳ゑ菊白ハ白ハ白ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ
那ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ
ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ方ゑ

一菊曰樣子の上昭君之事ニ就テ考ヘ合テ一家ニ至ル迄
てんてんとして分ハめん代のようなる白と云ふ伝
れハ菊曰られ一統新ゑんて伝るも仰ハさるめてしべけ
て勉ると称あくしと

一去芳を菊曰弥三味線の歌白吉ひて去上ゆつひる亞う
伝て伝して天てといろく白ゆうをたべれ井とかうを
こ手もむ多く勉る変ゆの手ゆるくの手し

一去芳を成二三を伝伝て志ゆ与て紅化二三老菊を点を色
菊ゆれをゆけ手再三の坂千人を新て曰ゆれ変伝し
きれをく参おゆ寿ゆあるれ吉ひて元んを十八毛彼の内
ゆ二ゆ白し拾れ勉ゆ元伝んを廿人行をひ止れ
して紅千菊の門ゆ入をし

一菊曰白八天ゆの人千かゆ一ゆ人ハやすし一人二人ゆかゆ
ゆ人の拾ゆをゆに伝ふハなしゆふんとたゆのの
ゆしゆ云ひく

一去芳を菊曰伝伝千四ゆ変ゆ能書の新ゆ中に白ゆを
れハ初四ゆを云をゆ云ゆ新ゆて云ゆいの新ゆ変云ゆ伝
ゆをゆく云ゆ云ゆく伝千伝白ゆを伝ゆ入ゆ云ゆ
乃ゆ一伝ゆて伝ゆ参ゆ白四ゆを入ゆを松ゆ云ゆ白
新ふんゆ参四ゆの中ゆひて元ゆを妹ゆを人ゆを伝伝ゆの井ゆ
四ゆ云ゆて伝ゆ参ゆ白ゆ新ゆる人ゆ

一去芳を菊曰共角八四岸ゆ一ゆる新ゆ一社ゆの無ゆ入白ゆを云
むく人ゆ一ゆ人ゆ無ゆ千八一社ゆを外ゆ伝ゆ人ゆ云ゆ
白八伝ゆを云ゆを云ゆを云ゆ又曰社ゆを云ゆを一世

此人をとゝのえ給ふ所門人宗[illegible]
世間八生滅とし[illegible]
一去芽を一とゝのえ[illegible]
葉なり八二月[illegible]
一去芽を歳内試と[illegible]
和ゝく天和[illegible]
[illegible]
[illegible]
一去芽を[illegible]
白[illegible]
[illegible]
一去芽を[illegible]

感四の[illegible]
[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一去芽を[illegible]
きん[illegible]
[illegible]
一去芽を人の白[illegible]

成用次のやうに菊千代門人に示されしとなり

一菊曰俳諧をきらひ俳諧をいやしむ人多し一方にこれを上手
にこなするゆえ初学の輩やまちを有てとし千代伝授をさへ
俳諧なりとさるゝと更なれ千人甚俳諧をもて事をさへ
するとなり しかるべし

一菊の俳諧は事を旨とし新味を発明する俳諧は事柄を用ひ
事を和歌に和歌といひあるべし 俳諧は事柄なり 俳諧
はなを言ふ人多し菊曰俳諧一の俳諧なり俳諧は和歌
和歌は事を旨とし俳諧は事柄を旨とす
おのづからとやされなり 俳諧は俳諧 俳諧

一菊曰春雨を雨と言ふ人多し春雨の白し春雨を雨と
きゝなしとも今は昔 うるはしと

一去芳子菊曰張家子むかし財は世をとゝのへ
物をうるはしくして人を用ひ不消うるはしを守して新しき
をもとめ奪れぬれば財をうるはしくして
財は世をとゝのへ物をうるはしくして
しかるべくして大切のこと

一菊曰俳諧の言葉は俗語を用ひ学問を弥千代門人
人のしるべくして大切の事と俳諧なり

一菊曰俳諧は人の影の義なり人の財は多世の
ものとなるべし事物の影は形をうつす
ものなり

一菊曰撰集懐紙短冊古歌二十首に三十首に
しるべし心ゆくべし 撰集の俳諧なれども大し

他名の名失うて花やしく天下に伝ること

一菊四郎芸事の物まねに家の何まとは外にちうこと必ずなし不思議なるおもしろき仕方なるに名をつけ世のつき物の拍子又さきだち人々

一太夫と菊常と乗をこまされ心つかひ成方なる夫人菊をせき止め請待きてこれを菊四郎不仕合の事と

義経よりも家を伝れ八幡宮つゝまふに他世の陸子和を伝れ

百ぺんとなく教ひやされ一ぺんとなく

一菊四郎旅行の時門人二三名伴ひもれしに敦賀ののしるさまなるか義と下さ自の旅と分をかなして入りされ一ぺんとなく

そなはれるを四八行の旅の地うに先食行御の身を忘れ

しらうとうとし学義をかるる價を人のうてしくに海

なし伝ることし

一太夫と菊成分と客子ありて食の後城場をくやみ一ぺんと宣ふ和の文ゝとし用ひ尺しを出きはきとし初めの人のうを不

そ自ひのおもむき他世又曰のうちと伝のてしとし世かう

の釈形菊のやし

一太夫と菊四郎手の旅行と他行の一ぺんとなく他伝のうこれと

をそを尺人とすれ八幡曰さのみ人をを死一ぺんは人伝ふ八

見ようとを又四のそれを尺人を有一ぺんとし歩ひをうと紙

尺されとをゆそれ海一

一菊一ぺんを岐阜の殿御尺の時形御一人と十二箱て舟と舞しを

千をうこをれをつゝ十二筋の縄堅横をもられてさを紀

ものうしおるをやすく見をを形屏とけすを云伝れ

えとられぬるとさとくなりたりもとめあるまとまたさとく
もつとくとられるまのハしらとなりさとくとまとまの
ものとハこそくしとこそ言
一翁曰人のつもとたかれ必ハそもとまれハ永仕仕る和
ものすくし他話の白居ハ和くてとくしハ古情と和さ仕人
情通とまれハ人間ハたよろしぶ友なくてあるとくとし
一古芳之翁曰人是非ものあ多分ものとくとふたと恨
なくくとく人の方さりうもひ老なとの四の序となく人仕とし
一古芳之一とくと大和の法隆寺とあ多の一条帳とて翁手法古多
冠人首仕仕とくとはの朝帳と又起れしと仕る古代の帳と
ひとうけと拾まれ四の仕とくとひやとくし
一武徐伝仕のものとくふれしと翁曰仕のるの八法士意者とと

ものとくとくとくとくものとくとくとくとく

紀ノ[illegible]義理ハ[illegible]ト人ノ[illegible]ト[illegible]
家ノ[illegible]ヲ行ヒテ[illegible]義理ヲ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]人ト思ヒテ[illegible]
[illegible]義理ヲ[illegible]
一古今ノ[illegible]人ノ歌ノ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]
一[illegible]ノ[illegible]人ニ対面ノ時[illegible]傘ヲ[illegible]
[illegible]人ニ[illegible]ト[illegible]
[illegible]

一[illegible]ノ時入[illegible]
[illegible]
一[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]

此句ハ明之深手おさまり新鮮なるはなし

一 浪化ニ伴項籍ハと菊塵の俳句を問ふ答へ曰ク

しら菊の陰忙子飽て此句を吟ずれハ今日の是非を交てなりとも是非

又其俳字寞ニ飽んされハ人俳諧を知るべし

そつなくそれハ一生自ら是非を弁ずるとハ此俳諧を知るべし

一 浪化ニ菊哉附其角を誠て曰ク 老子曰ク人の短

をそそるなり

ものいふと辰さしハ秋の波

此句をそそる其角一生他の是非をそそるなり

一 菊曰ク俳諧ハ物ニ対して心を動かすものなり物に動くこと

なきの人情を通ずるを是非とす化生ハ一句の化物なり

一 菊曰ク 芭蕉翁ハ 蛙ハ新酒ハ 其角

菊此句を見て仏を泥棒の魂ハ入ると云ふ其角一生

角ニ生涯此句の曲なるを知ると雖ども其角ハ

此句を拙ク言ふ故ニ其角ハ

一 十歳ニして小粒子ハ秋の風 許ス

浪化ニ菊此句を見て俳諧の骨髄ハ之れなり言ふ是を

菊曰ク俳諧ハ物ニ対して情のさびしをかなるを主と

菊此句を評して曰ク

一 浪化ニ菊ニ杜かの陵ニ俳の伐木丁丁ハ更此ニ一句を

称して俳諧を此心を尊ぶと云ひ又其角の弟子

おとうれいつゝ枝ゆのさゝすゆゑまて
おとろくくゝうゝ
とゝめゝし音をいふるゝをしるくゝらゝ
一浪化ゝ菊むゝし紀伊の山中を越のゝ六郎五十ゝゝの男それゝ
婦とおひきゝ伴ゝ薪を下して坂井ゝ体ゝひゝゝ女を
男の苦をゝゝゝひゝゝこハ女を苦てゝをゝゝ菊をくすゝ
日をくゝゝゝゝ人ハゝを伴ゝてゝゝゝゝゝゝハ男のゝゝゝ物ハ角の
山のかゝひゝゝゝ毒ゝ文殊薪をおひて妹ゝ言物ゝ共ゝゝ時
ゝ薪ゝ言れハ角ゝ孫取仏見を怪ゝゝ代の念ゝゝゝ山中ゝ
伴ゝゝ妹ゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一　毛をもて作りみてめくし野の足
菊四氏白八絲を一物の立てもて作りて文字かくらんか
りてしかん
一菊の花のさし筆をもてそ尾張をしるのひいきの川
人方財の風をうつしひけれハる供のするものを付き
のうつり
一さ床をなかハのきのふの家を絶ることハ中をしに居ることの
ゆゑ氏の切くに千点をうかひさ
一芭蕉を菊をもて八世角ゆを考ひくしめて出されな
も移りきて世角を春をかうるとを度ゆをもうゆの
花をもて紙いりし知作り数同門の人師をもて菊と
いふのうゆ代門の人菊をむりひて菊と称ることを

季吟八ゆのゆくをもて俳を先とし菊といふ八
門人のそうくさすをゆるゆ手を集をむさんを菊をもて
ゆをもて本芭蕉を八ものをすして俳諧の集をおいて菊をもて
天下の人芭蕉菊をうゆ代しうゆハ一特見をもてめて
同門の人の手をもてなりをハとゆ氏角の集をけりの亮
を立しゆをもて八ゆ代門の撰集しゆる時
白をもて菊をゆ日ゆ代門下の集をもてゆ氏角を菊と
をうをもてうくしをもて八ゆの通をおいて八ゆ代をもて
敬をもて菊をもをもて芭蕉をゆ日ゆ氏門人ゆ代八
自分の家を蕉をんをもとをかくをゆくし芭をゆ氏をひろめ
人をゆ代をんを却て俳をゆ代人九氏人京の家をき
こゆ代をゆをもの集をゆ世角をかさねて必菊をもて

なりと下知しのこされて後に伝て後の集にのこしてを
意と云なり

一成人の日を歌門の附句十七韻の表のことし一とせ仙道を学
ぶ人に手伝授する定なり此ものもかの家を十七
体と申し四体と申さるる文を授るの二つの伝なり
を伝授する事ハ一つに元手跡次第と伝て云を本大体
の意なれ共後五十年を歌門十七体の伝句ばかり伝授する
ようなる事ハ後学の者共なりをしたがるるを伝るや
ばかり是なりしに年来ハ歌門十人伝しく
伝ようなる者ハ伝れハ知しるべを受ること叶ざれ
ば歌ハ付句の数を以て示し伝くべきを定む是ら
ハ付句の大数を書切伝れるをハ知て為心

はずるようにてと思いとうて除千代書をやむさるめて
反歌のはをも拾ひ加て是をとうくとと大体ひ立
おりつて此文をとりの一つ大体ものもの歌道人しくが
ら伝れハ千文とうて千年有をしるしてみるに是境
の人千伝ものくしも付句ハの変万化して為を以ものの
ようなり

一菊日撰集に撰者の句ハ入るようなしを載集の対再物伝
有し伝成つの歌かはをもれるてはいう宮対俳伝撰者伝
なるべきはうるようなり

一 ひれにとて書なのみるくるを俳高
此句ハ歌の大地ようひれるも大地ようひれる五文なるて
如ようす菊伝ものれ伝の対ーされるう

一 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一 菊田先菊の俳諧八五番俳[illegible]
俳諧[illegible]
[illegible]
[illegible]
一 [illegible]
大切[illegible]
[illegible]

と[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きしのひ仕ていふ八幡大神川をあのみてくさよ
と云のひ[illegible]

一 世角ゝ為れ子俗名付ゝる詩れ色よりて八ヶのみの言ゝ
て能きのめゝと菊を考ゝやまれしとゝ

かゝひしゝを俗ゝ[illegible]やゝ為ゝ 正秀

一 文考を正秀ゝ性八ヶのゝしかゝ懐紙の風情ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ大和路の句詞を芭蕉ゝ[illegible]ゝ八[illegible]ゝ[illegible]ゝ又

あの志ゝに吹のくれし四附ゝ[illegible]
とゝゝて膚接ゝ世人のゝみる風情ゝを
葉ゝしゝ[illegible]ゝて杉ゝ[illegible]ゝ
ゝ[illegible]ゝ八風雅の周[illegible]ゝ[illegible]ゝ菊ゝ[illegible]ゝ
月ゝ[illegible]ゝ蘭八ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ文考ゝ

ゝ仕ゝ[illegible]ゝ菊曰ゝ[illegible]ゝ八[illegible]ゝ一句のゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

一 きゝ 桃晴
支考ゝ俳桃八ゝ[illegible]ゝ桃八[illegible]ゝ
久しく葉水の巻ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ菊ゝ起
ゝ[illegible]ゝ

一 かゝ[illegible]ゝ味方ゝ[illegible]れをゝ[illegible] 史邦
支考ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
ゝ[illegible]ゝ味方ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
[illegible]ゝ菊ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
深く武異の樋ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
ゝの[illegible]ゝ秋の[illegible]ゝ

一菊近化の年惟盛文考を伴ひ信州より帰郷ありしに
笠置寺より河舟を雇し彼岸頃と覚えて山の紅葉すべて
密柑の木枯しされハ実の秋
山ハこれみのんの色ハ実ても一ツのひ一ツ白ハ
ちりくに成て丁ちさきも文考ハ小りれハ枯れ条絡を
見てもなほ菊ハ尺つ咲ひ枯れて
其のしら河 寒菊や 蓑の ハ 雪鴻
文考ハ此蓑の花ハ蓑稲ハ侯一ツ菊と一筋の根ハいとの
中ハ枯れ
一世間ハ付合の白ハ付ると雨ハ雨ハ秋のうち白ハ付
ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付
俳ハ白ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付

又付白ハ吉言ハ付ハ初心の時ハ上ハ中ハ下ハ白ハ飛ハ
ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付
ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付
一 ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付
ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付
ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付
一世間ハ付合ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付
ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付ハ付

白きを以て心とし外に事を求めて更に
てに上をて白眼を白事しいたるを人にハ上
ん為れと白の死活ハ猶平生のごとくんべや菊亭の紙屋
紙ハ紙ハをこれをいかに名づけ上のごとくの
只人をくのやうと紙ハ紙ハをいかと云ひ
一世間をさし今のごとく白かれ白ハ傘をくるひむを用ひ
百しとし無をを今のごとハ白ハをくるをひて
ハ麻すをくをくをくしられ紙ハを平骨なるしめんあ
さしいひとりの上をくいをれんより紙ハ上をのをさ白ら
をくしをを言ひをを今のををををして紙ハをを熟
ををんハかの紙ハ望ををををを

女角とおもうてたゞ者にハあらぬ風ハ必変化の是月桂の
姿ハ仙人を飛尺とうて一風千出く学ハ一風千紙帝
ゆつう仮令ハの風ハ[illegible]て一風を[illegible]つして変化をし
さしてあれしハの日ハ[illegible]

一菊之祈のり仙の弟子金蔵を[illegible]く杖を休めの[illegible]時小春
春ごろ一夜金ゆうに千歳の[illegible]恵山海の仙[illegible]
られ真美を[illegible]千歳ゆうを仙合の[illegible]
仙ゆうを菊四しゆ[illegible]のまし[illegible]ひつゆひの[illegible]
仙されと恨ふくハ大名の仙成のゆうにして仙殺の[illegible]
いたんに香ハ安を[illegible]のようくさめたくひうして成ハ
[illegible]ハ[illegible]を[illegible]成ハ歳ゆうを木を
村の[illegible]を浅くのかゆ[illegible]

味豊安を[illegible]ものゝ[illegible]をとゆうを結
そんをもひ[illegible]食事の[illegible]
飢ハ[illegible]
を[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]里城内の物すさまじく風俗の奢を[illegible]
[illegible]れる金城の人々此詞を聞て夫ばかりにつうじ虎
を[illegible]は風俗と物骨を殺すとに成て[illegible]
[illegible]物全のごとく紀人の如く[illegible]
[illegible]
[illegible]一番を[illegible]州大塩の[illegible]
化をうれしといふ[illegible]
加[illegible]
一菊歳[illegible]
男[illegible]
を[illegible]菊やう[illegible]
[illegible]の[illegible]

菊激[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一菊屋小兵衛の財産堅の方を尋ねて菊の話を聞きつけて追
[illegible]
白衣一金[illegible]
隨院[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ふ[illegible]ことを[illegible]人の[illegible]
[illegible]を[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

一 八月や [illegible] 比新しく

[illegible]

七夕やもはかりとかうしふた右の句なれハ治定の八月かう

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 菊白八七八分ニいひつめ六けやきし五六分の白ハいけやきて
なかのうへしゝ

一 菊白八底香炉をたてゝ老木の枝ゆ漫図をえがき
めうとゝハかゝれと風流しを主の風少分石切小盆
ハかうしとはうゝて風雅かしゝ

一 菊白人の業しかゝ雪をゝ殺さんとをひのかゝひまふすをゝ
をとゝとゝしたゝをゝ白月彩色文字の彩彩ゝ雪をく小細
かさゝひれハをゝく事武帳を雲ゆゝくゝとし人の雲ぬ先を
雲んとゝれゆゝきてゝくゝをゝをゝをゝれ故の
るれとハゝひゝふれハ人を賞し故の明清ふゝ人なゝ
をゝとハゝゆひゝふゝひゝ吉の雲人扇作ゝしゝをゝ
ゝ白雪ゝゝゝ

一 ゝのをゝをゝをゝゝゝ彩のゆゝゝゝ 共角
菊白吉文字ゝゝしゝゝひゝまのゝゝゝ三ゝ白彩
されゝゝ共角ゝゝふゝしゝ共ゝ白彩
見ゝをゝゝゝゝゝ

一 ゝ本ゝんさひをゝハ風雅の大切しゝ者ゝゝゝゝの
ゝゝゝれゝゝ臨ゝの他者ゝゝゝゝをゝゝゝふゝ
文ゝのゝゝゝゝゝ業ゝゝゝゝゝゝゝゝ白
をいゝひ格ゝや見ゝ者ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝしゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
きゝゝ彩ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ送ゝゝひ彩ゝゝゝゝゝゝゝゝ
見ゝゝの者し

一　文庫より杉本の者ゝ参りし　桃子
一　すの枝　所　谷子　もとゝる　世尊
世尊ゝ式自仰ゝ所のゝ如くゝ然ゝ所ゝ
変ゝ有ゝ　一茅の心ゝ白みゝ
いとゝ白仮変ゝ
百人年阪ゝ中ゝ
やゝのゝ者ゝ

一　躑躅角先生書

故ゝ高真胴の御ゝ
糸雪茂ゝ

異流陵稜ゝ
ゝ
ゝ

之ゝ[illegible]れハ不易の句ニおいて[illegible]
[illegible]て[illegible]を本千おもむきとし[illegible]
蓬門の言葉し布て[illegible]
日[illegible]
[illegible]ものハ先ゝ形体を定めされハ人おもむく所[illegible]
旧習を改めさるなりて[illegible]
[illegible]人しハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一翁曰俗の云ふ秋のしやうけいとは春夏
秋冬さくきるものの季景八月を写て見れ八月前と春夏
秋冬とを兼ねたるものなり四時の景色八月を写て見れ八月前と春夏
一世波立て俗世を捨てる人を出家といひてさらに俗
いとはしとて

一翁曰中むかしもしらぬ俗世の捨てたくハ
かくてくらす山ずまいのつれづれとや　と詠
歌のようちやうきしみけれなりとられひ
世をはなれ好のしいひむかして有となく京ひかして新なる
て仕ふる人よりも世事ひろ家臣ゆきむて
捨小木と新案にうらのし

[illegible]

世のすしやらなれめる仲の石
と言ふことをもしりつひとはうるはうしと考て貴敬し
人と好ひしと奥之の多とよりもとなしかはうひ所
俗義大内の三世貌三芸拙と紙さひのひ丈夫日一と合一俗
世宰相の歌と所一人写の書の内ちに付て情をくさひ
おもふことをのべ来ていひきし俗と古人の延をふむる
とふのれ俗世の石芸者の俗世しされ俗世の石のと有て世
物と成れく代くれ行くうつ事をいうるやはらを古人
ふりとはさ

一翁曰白を夢とする時常と金の吉砂ちつしる経冊をひを
しとて

一翁曰附金の白八逆さとおもしいろ所る西人と紙乃れ八

いひ至ぬまのし

一説ニ[illegible]

一支考ニ定家卿の家訓ニ曰和歌ハ[illegible]
[illegible]

芋幹の拓本

[illegible]
芋の葉ハ[illegible]
[illegible]

一支考ニ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一[illegible]
武士の人ニ[illegible]
秋風絮を[illegible]

[illegible]
人を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一支考に箱に供きられて三河の新城とゝ和名
用　お　数　れ　みくれいもつる
と不花おそ人く夢入るを秋千句添よいつそや迎
江のお山をさてもかくうつくの庵廢つゝ古仏手のさく
らを物いれとやを八箱八ほの吹ひ多ふ論語の句識八
うそ一ひるゝ子貢文をうしろ論語の文をすゝ数
誠の二用と千事しそれをみしいそるやと
吹志と物るのさらとを物ふし
と千句を千事をさとやるめ秋千附と此付を物八
て俳諧八別おの句の人をとゝをえてそけを五二ものと
句と千枚八ひとひて詩世物みの三集と
ひゆゝ箱の付合を尺ゝ十ゝ五八千さ八七付とめその

なをそうをい箱曰秋と俳諧子お人ゝ句の二とを三とをゝ
ん物くれの付合をゆ秋ふそれゝの集を尺ゝとおゝくれ
ゝれを随数物秋ひて様踏の附ふね八決一てゝ
しゝとけゝを

一支考に物ゝ附箱の物ゝ白氏文集を尺て光
管と箱鶯とゝ人ゝ氏と氏おゝ物ゝれ八
ゝ　ゝ　や　竹　の　る　数　ゝ　光　を　竹
さゝみれ　や　竹　春　竹　ゝ　来　れ　梅
竹の二句を作ゝ竹ゝ竹ゝ八箱数ゝいて光茅の俳
情さいゝく箱ゝ作ゝん春八遠俳をゝゝ人八心のゝ
こひをゝゝゝ箱ゝ作ゝれ見八延の一言を入て秋ゝ梅ゝ
るさゝゝゝん

一歳時記にのつれて二三まきをまつとひらくこと一きをまつとしかとも
　　　

を生ずるに非ずして其者の才を称嘆するのみ

附録

一性甚だ酒を飲まず最渡辺柏庵二集に約諾すること数日あつて来て食するのみ宴席に出席外客のみ

秋海棠の寄味しを世間四五切しよりつねの酒をふんだんに飲て家店の男女を招しのみたれと強しかく三十五郎と二人と相対して飲て次第に酔あかさかりて飲こと

然るに家内に一人いかめる良醫あるとも拒ずして家方いろいろんふん系性に本色あるして知るものの外あるく

木こりを為して尺を作るに寸を作らんに寸を作らんに尺を作らんに寸を作らんに尺を作らんに寸を作らんに尺

[illegible]

十月二日　　[illegible]

[illegible]

[illegible]

十月廿五日　　[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 支考[illegible]

[illegible]

[illegible]

一次郎[illegible]毎年恵急[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]三句[illegible]香の句の姿[illegible]青苔日厚角長[illegible]これは是法者の言
儀[illegible]ハ閑女[illegible]陌上素の閑[illegible]
[illegible]閑女[illegible]三[illegible]波[illegible]
山水[illegible]清[illegible]
[illegible]大[illegible]清[illegible]の張[illegible]二句の[illegible]
[illegible]
[illegible]本[illegible]
遊[illegible]加減[illegible]閑女[illegible]
[illegible]
[illegible]川[illegible]

[illegible]ハ[illegible]人[illegible]
[illegible]泉[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

奉納

[illegible]

[illegible]

[illegible]

方しる宗かぬ減一さ世と寿ちとしとと業力とこうに乳くハ
法はさく仏醫もしめんとや山き末ぬつ卜ぬ日木さるう中衆
むあれとしいうある仏方ろて虎に就験を醫すとよ天業
いんうきん年ぬ悟さし仏れハ系法汲のかとんに百ハいつ
かとと木節ろ和方を紙さん仏とすむ吹れと言ひる
風法さは人ふれ百世するるあ支言ておかき末ニはら
さとかふれハさ年末ふろとと為庵の探婚さくうひて
ゆてち寺ふう鴻名の宗ぬおかく大期ろ絆世ゆうさ
くうに名医の絆せてあうーやとまいふのとはくし
ゆふれ一白を殺ーー殺ひく法門人のらさとめしーぬ日時
の貴白ハりふの絆せりみの貴白ハゆるの絆世年生遅いひ絆
白ニ一白として絆世ふ〜さるれ り系絆せいるる問

人ゆぶハ代年法いひ特室ー白いるれるうとと絆せふるとト
殺いれしー諸法後来書示寂滅相ふれハ見紙ふの絆せふて
一代の仏教代二白ふるるハ別ー古代や雄飛ふむあのふ代
白と系一風ふと無さしとふけるて絆世し生涯百年のあと
世ふ代ふあふさるれ別ふさを以白ふ絆世ふるふるハふと
とけるふうと決命系ふ御ふるとと注ふるるひ見のかと
平絆ふふの代諸ふとふ言ふ激妙の和の凡人ふるとと初し
一文字を代ふ八ふ教ニ入て時喩の形絆有ふ教ふ書酒
息ふふとるふとて仏教ふう音信別ー世年乙ぬトー態ふ飛
御ふさこ言ふさしぬふふれハぬ日系法遊の見とーて見
弱ふふ系の義百里の義教ふふ家族ふうふめりれふふ為
ふふに世ハ系過ふう今大高ふトかふれハ二教中のさふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

一人あやしのものとおもひ誰言ゝ雑言ひてゝ元三兄弟ゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

引とりて[illegible]

おりひとり秋かぜ　惟然

一本見をわたしてとりて[illegible]ひとり[illegible]人

人[illegible]こうきりのく十[illegible]の無[illegible]秋[illegible]

おらくくれて[illegible]新さし入[illegible]

[illegible]人[illegible]蟹[illegible]塊[illegible]

きてぐく無[illegible]入[illegible]

[illegible]大病中のすゑれハ忘[illegible]

[illegible]の病苦[illegible]

[illegible]尺合[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一て性無冷者一人れハ沙丈叶う旬をて一度と宮みあひて丈叶
出来されとういつゆてもさひきをとうとのひとうおすうと
と志をれ一者うもて行先のひとういつなとうし樣廻
のうつくしさを悦ひうるを本草一人然とかけて作る尺之
うれハ共角をれを問本草を云病子除中の症と云うけて
病中絶食をを係子食のすむすけうハ悪症と死なをを
けうひとをとうさハしくしおのしをめ丈作うるを被生活
又意熱性未けうて被的けう新色去のとくくしなひ者く
老問紙一人を尺知をを公をうしる良けうて又意症を成ひ
たなを人金時者毋一人をうるを次印を知ふをみををし分
地しけをとかく被的うれハ十二をを通て閑寂をあひうを
たをの陸をを稼をうをれをを共角を本丈叶ををれをを

向子尺のひ樣を使をれハ弦尺しをふれをををを行水を
宮みのを本草志きをに朱一中うれを三きをに宮みをを
止をを球をを行をひをを本草ををををををををををを
本草の醫術を盡をれしをれをををををををををを
人の所を近くをれをを所正ををを方をを支考性無者を
ををきなを行をのをを人をを遠をしをを病苦ハをを尺法
行人を意言の思ひををなをうを伊賀の者を云ハををを程ひ
をひおを京江戸名張尾張をれをを者をを
をを如法八門人本をを法を次第をををを疾喘を
て法ををひうれハ決印を系酒ををを宮ををを良
けうて言本ををひをを天法六永治実梨を後通をを
を作けうを法治を丈学をを明をを消息ををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大坂花屋より支考性無二百仕切の状筆海方の信伊勢の二名用
[illegible]屋より初きりれハ是幸と新みつ[illegible]
[illegible]式信[illegible]
止て[illegible]
ゆく人ゆきをゆはりれハ右の状を仕切[illegible]十二百の[illegible]
[illegible]上[illegible]
[illegible]松尾[illegible]
[illegible]
[illegible]大和の者[illegible]
[illegible]

[illegible]
八九里[illegible]
後[illegible]海[illegible]
[illegible]
[illegible]

一去芳草紙まくらに十二の雪を仮足を出船しまる所言号所
拾生く牝言出翠示八毛枝いろ
大仮子玉真子花紙を能き言語を法鼓をおもうて上り
のうしのぬ水ぬ雪又十言の屋舟を大仮ようりくし
夜間の刻を伏尺り玉枝まは法大仏の
一号方物語と義仲寺八吉更上人行職ふれ八寺ゆし三井寺
寺住侍ようり弟子千人まるれ読経念仏ゆう法入楼八毛枝
国の刻し語門人通枝して伊賀を一夫石ようを夜を入るる
夫石所 去来女角乙西ま法職して葬式いよし十号の国
の上刻とお墓む屋の中ようゆつまれる人八雪義のとく悲
子和ようる人氣凡三百人餌志ようしぬをつよう集る老若
男女ようし楼ぬ起むゆ小きものまるしるの天寺時

ようる月清明として池水の面ようやまるうを屋
屋の松子咲おこるを世書の花のとおもそれて自ハおし
乃ようるの春八ゆそれ水ようるのとく人ようれて行ようる云
ようる月ようるさぶん矢橋のさきをみのようまるひるを愁人の
春のそれ絵ようせようる法をようふ

引導香語　　支考記

雪月魁魁風花精神等閑一句驚動人天鳴呼
奇哉芭蕉妙哉芭蕉萬里白雲一輪明月五十
一年一字不説

各捻香

文革　其角　去来　李由　曲翠　正秀　木節　し州
臥高　惟然　昌房　探芝　泥足　之道　芝柏　牝玄
尚白　士芳　卓袋　許六　丹野　風國　野童　游力
野明　角上　胡故　蘇葉　靈椿　素蟹　田鳬　萬里
誠く　這葊　荒雀　楚江　木枝　扑吹　魚光　支考

[illegible]

[illegible]

一出山佛一紙　佛去一寸一分

佛送物

一鐵如意一本　仏頂様ゆゑ附与長き柳延て一尺九寸位歟
　紫瓶金箔本ゆゑ左文州ゆ附与
一観音経　小本一巻
一紙縫袈裟　佛頂様ゆゑ附与　一口
一袖紙　一口
一古今集序註　一部
一被風
一木硯　松木ゆゑ旅硯
一新式　一部
一百人一首　一部
一浮笠　一蓋
一真ゆゑ鉢巻　一部
一浮杖　一本
一蓋　一被
右武蔵袈裟ゆゑ八十七歳八月て性無之ゆ附与の約諾の
ゆゑ此頃真、性無之ゆ附与
一浮陀陀　一

中ゆ杜子美詩集山家集分、板様みのゆ見ゆゆて弟仙三老
ゆ愛白四郎ゆ此分ハ少ゆ書付の反故ゆ入ゆ紙ゆ色ゆゆ板様
五寸ゆ六寸許上色ゆ狭ノ細布ゆ此ゆ遊上清風ゆゆ又分ゆ和歌
の古短冊二枚松島蜘蛛の絵二枚
右の内残ゆ色ゆる五寸ゆ二寸の布製并松島蜘蛛ゆ画
ゆ弟仙ゆ遺ゆ此分ハ少ゆ反ゆ下地ゆ仏仕ゆゆ板ゆ書ゆ
生涯愛用ゆ仏様　玄来
一鳥羽文箱　一御黒塗
長一尺九寸幅一尺二寸高四寸　板厚三分筆反一尺一寸
玄育法師ゆ頂ゆ仏像ゆ玄奉吟芭蕉
芭蕉翁一代ゆ書ゆの俳席ゆ用ゆ
の集撰成ゆの名法ゆ

いのことしそもそも義仲寺ニ石碑れいとらく
但三ケ所假二ケ所ハ小楷先生と一ケ所ハふき掛と四方の
角物しなり

俳諧一葉集 大尾

江都書林 下谷御成道 青雲堂英文藏板

小學本註	二冊	增補文語碎金	二冊	八面鋒	四冊		
扶桑蒙求	三冊	宋名家詩選	二冊	晚唐百家絶句	五冊		
題画詩類鈔	二冊	香籾集	一冊	和歌題百絶	一冊		
三大家絶句	一冊	蜀山先生詩集	一冊	東征稿 西上記	二冊		
漫遊文草	五冊	昔々春秋	一冊	酒中趣	二冊		
左傳凡例考	一冊	左傳比事	一冊	歳華一枝	一冊		
歳華一枝拾遺	一冊	名乗字引	一冊	名乗字彙	一冊		

略註五經字引 一冊
書家必用 一冊
古韻通叶 一折

痘疹戒草 三冊
治痘要訣 一冊
保嬰須知 二冊

雜書之部

篆書字引 一冊
書家錦囊 一冊
醫書之部

治痘要方 一冊
痘疹養生訣 一冊
續痘科辨要 三冊
方函 二冊

易學小筌 一冊
書家便覽 一冊

治痘要方補遺 一冊
疱瘡食物考 一折
種痘辨義 一冊
日養食鑑 一冊

三省録 五冊
東洋倉百首 一冊
隷書醉翁亭記
光琳百圖 二冊
画圖撰要 三冊
刀釵圖考 一冊
鞍鐙圖式 一冊
田畑調法記 二冊

世事百談 四冊
子昂真草千字文
蘭竹画譜 二冊
光琳百圖 後編 二冊
一蝶画譜 三冊
刀釵圖考 二篇 一冊
甲冑著用辨 二冊
百姓伐袋 一冊

尾礫雜考 二冊
子昂龍興寺碑
竹沙小品 一帖
光琳百圖 後編 二冊
蕙齋略画 二冊
裝劔備考 一冊
貞丈家訓 一冊
校正孔方圖鑑 一冊

珍錢奇品圖録一冊　古錢鑑　一冊　佛鬼軍一休　一冊
三界一心記　一冊　日蓮御一代記　一冊　善惡種蒔和讃
八部抜講釋　一冊　暦日講釈　一冊　將棊圖式　一冊

歌書之部

貫之集類題　二冊　香川景樹集　桂の落葉　二冊　海野遊翁詠　柳園家集　二冊
千町抜穂　一冊　園圃抜菜　二冊　萬葉用字格　一冊
靈能一貫　二冊　源氏物語系圖　一折　手柄岡持狂歌狂文　あやつり　二冊
蜀山百首　一冊　仮名類纂　一冊　竹村茂枝集　穂向屋集　三冊

俳諧之部

俳諧故人五百題　二冊　續故人五百題　二冊　掌中故人五百題　一冊
新五百題　二冊　新〻五百題　二冊　嘉永五百題　二冊
今人五百題　二冊　續今人五百題　二冊　今人五百題三篇四冊
近世五百題　二冊　白雄坊五百題　二冊　過日庵撰　今人百家類題　二冊
過日庵撰　近世十家類題　二冊　名所千題集　三冊　題林發句集　四冊
十萬發句集　四冊　乙二七部集　二冊　曉臺七部集　二冊
今七部集　二冊　嵐雪句集　二冊　發句類聚　二冊

發句古今撰 二冊
俳諧寐梨 二冊
一葉集 芭蕉翁一代集 五冊
俳諧四季草 四冊
風俗文選拾遺 二冊
梅澤先生手本向
千字文 一冊
御成敗式目 一冊
過日庵輯 蒼虬翁句集 二冊
饒舌録 二冊
一葉集 後篇 翁之文消息 四冊
安政五百題 二冊
庭訓往来 一冊
消息詞 一冊
女今川 一冊
今人發句集 二冊
過日庵撰 名家類題 四冊
俳諧集草 十六篇
過日庵撰 類題金玉集 四冊
風月往来 一冊
庭梅帖 一冊
女雅俗要文 一冊
新三十六歌仙 一帖
續撰朗詠集 二冊
諸流手本向
尊圓古今序 一帖
大槁庭訓往来 一冊
正敬商賣往来 一冊
瀧本鴻書帖 一冊
雪後帖 石摺 一帖
實語教童子教 一冊
同真名序 一帖
大槁新年帖 一冊
蓮池堂法帖 一帖
雜書并繪入物之部
新撰詩歌合 一冊
尊朝滿湖景 一冊
橘正敬庭訓 一冊
瀧本芳野道の記 一冊
曲亭馬琴案文 雅俗要文 一冊
十返舍一九案文 諸國書狀指 一冊

教訓圖會 前後 二冊
大學笑句 一冊
毎朝神拜小言 一折
山東京傳作
滑稽文選 一冊
甲越勇士鑑 前後 二冊
女大學玉文庫 一冊

皇朝三字經 一冊
裁縫早手引 一冊
式亭三馬作
小野馬鹿村 一冊
安見道中記 一冊
諸職雛形 一冊
女庭訓往来 一冊

繪本國恩俚談 一冊
米錢胸算用 一冊
十返舍一九作
附會案文 一冊
唐土名所の繪 一枚
花鶴百人一首 一冊

天下一方 登龍丸 食物一切 さし合法

一包 代百文
一廻り 代六百五十文

扨登龍丸ハ天下一方我家の秘法にて疾咳留飲一通りの妙薬
なり殊ニ十年以来疾咳のそ迄上痰痛ミ立居成がたく又留飲ニ
て気をふさぎ枕痛幾夜も寝ず成ぬ成ぬ迄強き症も軽く
重き症ハ一廻り数年来の難症ハ三廻り半用ゆる時ハ忽ち
疾を治し咳を止め留飲ハ痰を開き病全くゆるゆる疑
ひ晴よ固て人気の度世を補ひ気血を巡らし脾胃健
調へ気力を保し寿を立云右さまやのよ英書を巻ー兵庫

延命ぜる事数万人用いて試て至切の大なるもの古今無
双希代不思儀の妙薬と世切尊ばれる
一十年廿年端息　一労症の嗽　一引風の嗽
一からぜき　一咽喉ぜりつき　一疾病聚法者知ず
一疾よ奥の交ま　一疾病出て出ま　一動気ばかり水中
一小児百日嗽　一婦人産後の嗽　一留飲より絞痛
一留飲より乳寒　此外疾嗽留飲より起る痛一切よりはし
一当年をはたらく人時々用ゆる時は当年をはたらく妙
抑疾嗽の薬苦りう法の出処は多く草木より変ようけて

引札に疾嗽八言よ及ぶ痛癪迫る迷よあるる病よりて
いとゞ疾嗽留飲の一病ゝいとゞ治一雑き当地より此地に読九名
年久しき疾嗽留飲より医療をはたらく百薬を用ゆるもいとゞ
治一雑き難症すでも迷よ治まて薬八平ぶ中の名法より万人
を救ひて減ると人として治せぬ人ハ絶て天下無双の一番薬
まて絶よ新あ一当のあのら正切能速あるといとゞも下し薬ハ
毒く婦人産後の産後より関ひ害あきを知ず一能ひ
て偽あき名法あるを知べし　光邦ゝよ修製薬多くは留
包紙に印を乗ゝ上方よ当て取次変りて江戸ハ

東叡山御用

御書物所

江戸下谷御成道

青雲堂英文藏製

京都三条通さくい町　出雲寺文次郎
大阪心斎橋さくらゝ町　河内屋義兵衛
江戸日本橋通り　江戸屋太兵衛
遠州中泉　浦屋太太助
尾張名古屋本町七丁目　永楽屋東四郎
遠江天竜　伊勢屋忠兵衛
駿河府中新丁　天満屋武兵衛
下総佐倉本町　西文堂利兵衛
武州江戸本町七丁目　須原屋安次郎
豫州吳波町　久兵屋藤兵郎
加賀金沢　八尾屋長兵衛
常陸佐竹天明　堀越常三郎

奥羽仙台分町　伊勢屋忠兵衛
同会津若松一の町　麻羽八四郎
信濃松本　宮英屋忠兵衛
同善光寺　小林屋長兵郎
上野高崎　沢屋要義
上総佐倉　鶴田万義
下総多古　土屋勘次郎
常陸水戸　釜屋長兵衛
越後三条　扇屋七右衛
同　水原　小田島俊兵衛
甲府魚丁　村田屋幸右郎
常陸佐竹天明　万屋利兵衛